

# 日本舞踊協会公演

人気のある古典舞踊の名作、近現代に創作され評価の高い作品、そして上方舞まで、日本舞踊ならではの多彩な魅力を楽しめる公演です。現在の日本舞踊界を代表する第一線の舞踊家が流派を超えて出演します。現代までいきいきと受け継がれてきた日本舞踊の「いま」の姿をぜひご覧ください。

各部、古井戸秀夫氏(東京大学名誉教授)による見どころ解説がございます。

### 演奏

長唄/杵屋直吉、杵屋勝四郎、今藤長一郎、唄、杵屋栄八郎(三味線)、清元/清元美寿太夫、浄瑠璃、清元菊輔(三味線)、常磐津/常磐津一、佐太夫(浄瑠璃)、常磐津文字藏(三味線)、常磐津仲重太夫(浄瑠璃)、常磐津菊寿郎(三味線)、地歌/富山清琴、富山清仁、大和左京(唄)、大和櫻笙(三味線)、囃子/堅田新十郎

二月十一日(土)

夜の部 午後四時半開演

一、長唄

## 「淀川抄」

振付 若柳壽延  
作詞 吉井勇 作曲 五世杵屋佐吉

尾上 京山 村侃  
花柳 双子 若柳 延祐  
藤間 豊宏 (関西支部出演)

二、常磐津

## 「水売り」

振付 坂東勝友  
作詞 小野金次郎 作曲 四世常磐津文字兵衛

西川 大樹  
坂東 朋奈  
猿 若清三郎

## 「紅売り」

振付 坂東勝友  
作詞 小野金次郎 作曲 四世常磐津文字兵衛

三、長唄

## 「風林火山」

振付 花柳昌太郎 作詞 八木隆一郎  
作曲 十四代杵屋六左衛門

西川 扇左衛門 花柳 昌鳳生  
花ノ本 九州光 藤間 直彦  
花柳 輔蔵 藤間 祐三  
花柳 寿美蔵 若見 匠助  
花柳 昌克 若柳 吉應  
花柳 昌克 若柳 吉亮

四、長唄

## 「鶯宿梅」

振付 二世花柳壽業  
作詞 香取仙之助 作曲 杵屋正邦

梅 吾妻 徳穂  
鳥 花柳 柳 寿楽 基

五、常磐津

## 「乗合船恵方萬歳」

のりあいぶねえほうまんざい

若柳 壽延 芸者 水木 佑歌  
松本 幸四郎 通人 西川 扇与一  
才藏 藤間 恵都子 屋敷娘 花柳 昌太朗  
白酒壳 藤間 蘭黄 女船頭 藤 静枝  
大工 藤 蘭黄 女船頭 藤 静枝

二月十二日(日)

昼の部 正午開演

一、大和楽

## 「江戸風流」

振付 神奈川県支部  
作詞 仁村津夫 作曲 大和久満

男 花柳 登貴太郎 女 泉 翔蓉  
若柳 三十郎 坂東 東以津緒  
坂東 智和 (神奈川支部出演)

二、清元

## 「子守」

中村 梅

## 「鳥羽絵」

西川 扇衛仁

三、長唄

## 「鳥獣戯画」

振付 花柳春海  
作詞 柴崎四郎 作曲 十四代杵屋六左衛門

蛙 花柳 吉史加 鬼 花柳 和あやき  
花柳 楽彩 花柳 笹公  
藤 蔭静 花柳 輔瑞佳  
若柳 薫子 花柳 寿華  
坂東 映司 花柳 まり草  
藤間 翔央 藤間 栴

四、常磐津

## 「松廼羽衣」

振付 二代花柳壽輔

天女 市川 翠扇  
伯了 花柳 壽輔

五、長唄

## 「鶉の殿様」

原案 西川右近 作曲 芳村伊十七

尾上 菊之丞 腰元 西川 申晶  
花柳 輔太朗 藤 蔭里燕

二月十二日(日)

夜の部 午後四時半開演

一、清元

## 「青海波」

振付 市山松扇

西川 舞鳳 藤間 勘寿娥  
花柳 杏久美 藤間 緑英  
坂東 京弘女 松本 幸万里  
坂東 一二三 若柳 順助 (千葉支部出演)

二、長唄

## 「大津絵藤娘」

構成 藤間忠部子

泉 秀彩霞 花柳 寿紗保美 若柳 杏子  
泉 秀樹 藤間 仁風 藤間 涼太郎

三、長唄

## 「孫悟空」

振付 五條珠實  
作詞 あさとすみこ 作曲 菊岡裕晃

孫悟空 林 千永 花柳 寿美柚里  
猪八戒 藤間 章吾 花柳 基紫瑞  
沙悟淨 泉 徳保 藤間 聖衣暉  
三蔵法師 松 島昇 松 島昇  
大王 旭 七彦  
観世音 藤間 仁章

四、地二題歌

## 「由縁の月」

山村 友五郎

「残月」 振付 五世井上八千代 井上 八千代

五、常磐津

## 「乗合船恵方萬歳」

のりあいぶねえほうまんざい

西川 箕乃助 芸者 尾上 紫  
藤間 勘右衛門 通人 花柳 園喜輔  
才藏 藤村 梅彌 屋敷娘 藤 寛紫  
白酒壳 中村 吉藏 女船頭 吾妻 穂  
大工 若柳 吉藏 女船頭 吾妻 穂

SNS



お問合せ



公益社団法人 日本舞踊協会

03-3533-6455 (平日10時~17時)

協会公式ホームページ <https://nihonbuyo.or.jp/>

